

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科			
科目名称	栄養教育各論Ⅱ						授業形態		講義	
科目コード	303000	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	原口 直樹								ICT活 用	○
授業概要	総論、各論Ⅰで学んだ理論や展開方法を用いて、ライフステージ・ライフスタイルに応じた個別栄養教育、ならびに集団栄養教育のあり方や具体的方法について、また障がい者やスポーツ時に応じた栄養教育、食物・情報へのアクセスに必要な食環境づくりについても習得する。【態度・志向性の育成】 管理栄養士は栄養教育の対象と機会を常に認識し、自らも周りに働きかけて栄養教育の目的を遂行することが求められているため、関係機関と連携した組織づくり・地域づくりおよび食環境づくりの重要性についても学ぶ。 授業期間中において学ぶことはできても、身につけることができない資質・能力については関連する授業科目や諸活動等を通して学ぶ。【生涯学習力の育成】									
関連する科目	栄養教育総論・栄養教育各論Ⅰを事前に、履修後は、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱを履修して、栄養教育に関連する知識と技術の習得を目指す。									
授業の進め方 と方法	授業内容の復習と確認のために、毎回「確認テスト」を実施する。 授業は主に講義方式で行いますが、課題を与えてディスカッションをしたり、ロールプレイをするなど、アクティブラーニング型の授業を展開する。また、理解を深めるため、スライドのほか、DVD教材等の活用し、「確認テスト」を通して課題に対する自らの考えをレポートで表現する。【汎用的技能の育成】									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 「妊婦・授乳婦の栄養教育の特徴と留意点」 「妊婦・授乳婦の栄養教育の実際」 各ライフステージ（妊婦・授乳婦）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	「乳児期の栄養教育の特徴と留意点」 「乳児期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（乳児期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	「幼児期の栄養教育の特徴と留意点」 「幼児期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（幼児期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	「学童期の栄養教育の特徴と留意点」 「学童期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（学童期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	「思春期の栄養教育の特徴と留意点」 「思春期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（思春期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第6回】	「若年成人期の栄養教育の特徴と留意点」 「若年成人期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（若年成人期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第7回】	「成人期の栄養教育の特徴と留意点」 「成人期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（成人期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第8回】	「高齢者の栄養教育の特徴と留意点」 「高齢期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（高齢期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第9回】	「障がい者の栄養教育の特徴と留意点」 「障がい者の栄養教育の実際」 各ライフステージにおける問題解決のための栄養教育（障がい者）について学ぶ。									
授業計画 【第10回】	「傷病者の栄養教育の特徴と留意点」 「傷病者の栄養教育の実際」 各ライフステージにおける問題解決のための栄養教育（傷病者）について学ぶ。									

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	管理栄養学科					
科目名称	栄養教育各論Ⅱ					授業形態		講義		
科目コード	303000	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	原口 直樹								ICT活 用	○
授業概要	総論、各論Ⅰで学んだ理論や展開方法を用いて、ライフステージ・ライフスタイルに応じた個別栄養教育、ならびに集団栄養教育のあり方や具体的方法について、また障がい者やスポーツ時に応じた栄養教育、食物・情報へのアクセスに必要な食環境づくりについても習得する。【態度・志向性の育成】 管理栄養士は栄養教育の対象と機会を常に認識し、自らも周りに働きかけて栄養教育の目的を遂行することが求められているため、関係機関と連携した組織づくり・地域づくりおよび食環境づくりの重要性についても学ぶ。 授業期間中において学ぶことはできても、身につけることができない資質・能力については関連する授業科目や諸活動等を通して学ぶ。【生涯学習力の育成】									
関連する科目	栄養教育総論・栄養教育各論Ⅰを事前に、履修後は、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱを履修して、栄養教育に関連する知識と技術の習得を目指す。									
授業の進め方 と方法	授業内容の復習と確認のために、毎回「確認テスト」を実施する。 授業は主に講義方式で行いますが、課題を与えてディスカッションをしたり、ロールプレイをするなど、アクティブラーニング型の授業を展開する。また、理解を深めるため、スライドのほか、DVD教材等の活用し、「確認テスト」を通して課題に対する自らの考えをレポートで表現する。【汎用的技能の育成】									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 「妊婦・授乳期の栄養教育の特徴と留意点」 「妊婦・授乳期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（妊婦・授乳期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	「乳児期の栄養教育の特徴と留意点」 「乳児期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（乳児期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	「幼児期の栄養教育の特徴と留意点」 「幼児期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（幼児期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	「学童期の栄養教育の特徴と留意点」 「学童期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（学童期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	「思春期の栄養教育の特徴と留意点」 「思春期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（思春期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第6回】	「若年成人期の栄養教育の特徴と留意点」 「若年成人期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（若年成人期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第7回】	「成人期の栄養教育の特徴と留意点」 「成人期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（成人期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第8回】	「高齢者の栄養教育の特徴と留意点」 「高齢期の栄養教育の実際」 各ライフステージ（高齢期）の特徴と栄養教育上の課題について学ぶ。									
授業計画 【第9回】	「障がい者の栄養教育の特徴と留意点」 「障がい者の栄養教育の実際」 各ライフステージにおける問題解決のための栄養教育(障がい者)について学ぶ。									
授業計画 【第10回】	「傷病者の栄養教育の特徴と留意点」 「傷病者の栄養教育の実際」 各ライフステージにおける問題解決のための栄養教育(傷病者)について学ぶ。									

授業計画 【第11回】	「各機関での栄養教育（臨床現場）」 臨床現場における栄養教育について学ぶ。
授業計画 【第12回】	「各機関での栄養教育（公衆栄養現場・特定給食施設）」 公衆栄養現場および特定給食施設における栄養教育について学ぶ。
授業計画 【第13回】	「食環境づくりと栄養教育（食物のアクセス）」 食環境づくりの重要性と管理栄養士の果たす役割（食物のアクセス）について学ぶ。
授業計画 【第14回】	「食環境づくりと栄養教育（情報のアクセス）」 食環境づくりの重要性と管理栄養士の果たす役割（情報のアクセス）について学ぶ。
授業計画 【第15回】	栄養教育と関係法規
授業の到達目標	1 栄養教育は健康の保持・増進・生活の質・人生の質の向上に寄与することが目的であり、望ましい食行動の形成と確立を目指す人間教育を行うためには人の行動を全人的に理解することが重要であることを理解する。【知識・理解の育成】 2 行動変容促すための理論や技法、栄養カウンセリングにおける初回面接やコミュニケーションについて習得する。【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP) との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	講義前に資料や教科書を確認し、栄養教育の理論や手法の基本を理解する。事前課題に取り組み、実践的な視点を養うことで、講義内容の理解を深め、積極的に議論に参加できるよう準備する。(課題の提出1時間)
授業時間外学習【復習】	講義内容を振り返り、ノートや資料を整理して理解を定着させる。実践事例を自身の経験と結び付け、疑問点を解消しながら、次回の講義への学びを深める習慣を身につける。(課題の提出1時間)
課題に対する フィードバック	確認テスト、レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	以下の結果を総合して評価する。 1) 定期テスト（50点）：教育プログラムの企画提案 2) 小テスト・課題（30点）：指導実践の成果、理論理解の確認 3) 授業態度・参加（20点）：姿勢とレポート提出状況
テキスト	『管理栄養士講座 栄養教育論 第3版』中村丁次・外山健二・笠原真子編著 健帛社（「各論Ⅰ」共通）
参考書	『改訂マスター栄養教育論』逸見幾代・佐藤香苗 編著 健帛社 健康・栄養科学シリーズ『栄養教育論』丸山千寿子・足達淑子・武見ゆかり 編集 南江堂 『行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践』 足達淑子著 医歯薬出版 『ライフスタイル療法! 第4版 生活習慣改善のための行動療法』 足達淑子著 医歯薬出版
備考	管理栄養士としての病院や学校での勤務経験、また行政・企業との共同研究経験を活かし、実践的な栄養教育に必要な知識と技術について講義を行う。 各対象者が直面する課題やその解決策について、栄養教育論の視点から、理論と実例を交えた実践的な授業を展開する。